

小田原 ライブハウス「Jaka Jaka」

夜な夜な「星」と輝くおやし
バンド。この春、小田原市栄
町にオープンしたライブハウス
がにぎわいを見せている。その
名は「Jaka Jaka Jaka」。
ギターを抱え、小さなステー
ジに上がっては、かつて夢にな
ったフォークソングを熱唱する
中年男たち。それぞれの半生を
駆け抜けた喜怒哀楽を歌詞に込
めた熱唱が、今宵も城下町の夜
に染みていく。(緒方 秀行)

「ギターでジャカジャカ
やるからね」。運送会社を
経営する古川達高さん(56)
は、店名の由来をこう説明
した。
「こっついアメ車を買お
うと思ってたんだけど、友
人と『そっいえば、素人が
演奏する場所がないよな』
って話になってさ。そっだ、
車代でライブハウスをやっ
ちやえってことに」。オー
ナーとして開いた店の面積
は35坪。3坪のステージに
鎮座する高級ギターの数々
は古川さんのコレクション
だ。
「高校生のころは1万円
のギターをかき鳴らしてい
た。大人になって、ようやく
高級ギターが買えたけ
ど、今度は弾く場所も暇す

おやしバンド響け

駆け抜けた半生思いを歌に

盛況 3坪のステージ

「飲んで聴いて楽しもう」

「働く」という「闘争」
をひたすら続けることで家
族を守ってきた、いわば全
共闘世代。いつの間にか
「おやし」に成長した
ものの、時に襲われるえも
言われぬ孤独感。
「音楽に仲間が加われれば
楽しい。酒と食い物があれ
ばもっと楽しい」。そんな
古川さんの実感が店のコン
セプトとなった。そのうわ
さを聞き付けた「おやしバ
ンド」が今、ステージに続
々と上がる。演奏料は30分
無料だ。
やはり50代が多い。高田
渡、岡林信康、加川良、五
つの赤い風船、高石ともや、
吉田拓郎、井上陽水…。70
年代を席巻したフォークソ
ングがJaka Jaka
の夜を占領する。
なぜ、今、おやしバンド
なのか。「カラオケじゃ物
らなかった」
足りない。自らギターを弾
いて歌いたい、ということ
ではないかと、FMおだ
わらの鈴木伸幸放送局長
を支持しなければならぬ
ライブハウスが多く、若者
が出演しにくい。無料で出
演できるこの店のオープン
は若者にとっても朗報だ
し、「飲んで聴いて楽しも
う」という文化が、日本で
も育ち始めたと感じる。
♪今でもほくは 思い出
すのさ あ頃の事 あ
の日の人 ほくと同じ
学生だった 国のためと
死んでいった」
古川さんは、仲間とステ
ージに上がると歌い始め
る。

「松本バンド」の一人と
して歌う古川さん(左端)
||小田原市栄町のライブ
ハウス「Jaka Jaka」



♪私達たちは今戦争を忘
れてはならない。まるで
洪水のようになにもかも
がひきずり込まれて行
く。
営業時間は午後5～11
時。エレキギターは原則禁
止。日曜定休。小田原駅か
ら徒歩5分。問い合わせは
Jaka Jaka ☎04
65(23)8485。